

## 中学校国語

- 次の文章を読んで、一く七の問いに答えよ。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

小浜逸郎『日本語は哲学する言語である』より（一部表記等を改めた。）

※著作権法に基づき掲載は省略します。

- 一 「<sup>a</sup>仕麗」、 「<sup>b</sup>伽藍」 の読み方をひらがなで記せ。
- 二 「<sup>c</sup>ギオウ」、 「<sup>d</sup>シバられ」 を漢字に直して記せ。（楷書で正確に書くこと）
- 三 「<sup>①</sup>共通した日本語特有の含意」とは何か、文中の言葉を使って説明せよ。
- 四 「<sup>②</sup>ただ辞書風に複数の使用実態を概念化している」とはどういうことか、「事例」、「言語」という言葉を使って二十五字以内で説明せよ。
- 五 文中の（<sup>③</sup>）にあてはまる言葉はどれか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で記せ。
  - ア、鮮やかに
  - イ、詳細に
  - ウ、穏やかに
  - エ、冷やかに
- 六 この文章において、筆者が論じている内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で記せ。
  - ア、「いる」という言葉は、非常に便利な言葉であり、英語における現在進行形と全く同じであると説明することができる。
  - イ、言葉は単に事実や状態を表すものだから、「いる」という言葉には語り手の情緒が働いていると説明することができる。
  - ウ、日本語には運動状態を表していない「いる」もたくさんあるから、同じ音韻で異なる概念を表すことができない。
  - エ、言葉は客観的な事実や状態を表すものであるという考えでは、「いる」と「ある」の言葉の区別の説明ができない。
- 七 この文章の展開の特徴を挙げ、その効果について説明せよ。

二 次の文章を読んで、一〜七の問いに答えよ。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

伊集院静『親方と神様』より（一部表記等を改めた。）

※著作権法に基づき掲載は省略します。

- 一 「<sup>a</sup>急に」「<sup>b</sup>大きな」「<sup>c</sup>神妙な」「<sup>d</sup>口下手な」の中から品詞の異なるものを一つ選び、その記号を記し、品詞を漢字で記せ。
- 二 「<sup>①</sup>六郎は眠れなかった」のはなぜか、その理由を記せ。
- 三 「<sup>②</sup>一日一日も砂鉄のようなものだったのかもしれない……」とは、どういう意味か、これよりあとの六郎の言葉から一文で探し、はじめの五字を書き抜け。
- 四 「<sup>③</sup>浩太の顔が半べそをかきそうになっていた」のはなぜか、その理由を記せ。
- 五 「<sup>④</sup>浩太が六郎の胸に飛び込んできた」とあるが、このときの浩太の心情を「山登り」、「理解」という言葉を使って五十文字以内で記せ。
- 六 「（<sup>⑤</sup>）」にあてはまる言葉はどれか。次のア～エから一つ選び、記号で記せ。
  - ア、堰を切ったように
  - イ、熱のこもった
  - ウ、途切れ途切れに
  - エ、はつきりとした
- 七 中学校学習指導要領解説（国語編）では、「語彙指導の改善・充実」が示されている。そのことを踏まえて、あなたは「読む」との指導の中で、どのような点に留意して指導するか、百字以内で記せ。

三 次の文章を読んで、一〜六の問いに答えよ。

※著作権法に基づき掲載は省略します。

安楽庵策伝『醒睡笑』より（一部表記等を改めた。）

※著作権法に基づき掲載は省略します。

- 一 「<sup>a</sup>給はぬ」、「<sup>b</sup>先達」の読み方をすべてひらがなで答えよ。
- 二 「<sup>A</sup>けれ」の品詞と活用形を漢字で記せ。
- 三 「<sup>①</sup>如くはあらじ」を現代語訳せよ。
- 四 「<sup>②</sup>とかくこのまねせん」を現代語訳せよ。（ただし、「このまね」を明らかにすること。）
- 五 「<sup>③</sup>これ」とあるが、内容を二十五字以内で説明せよ。
- 六 この話の滑稽さを説明せよ。